

南蛮美術企画展

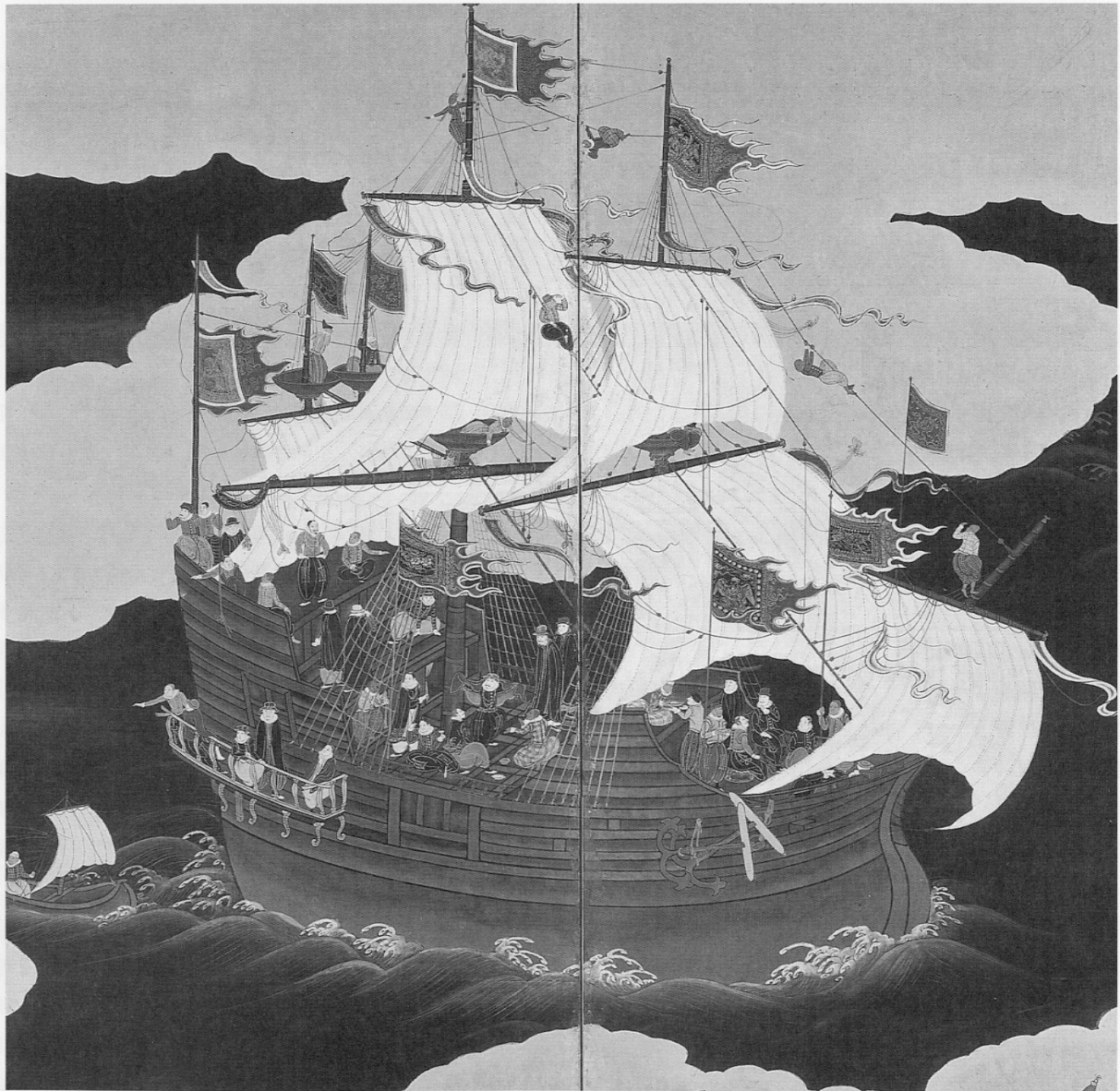
美術のなかの交易

— 南蛮屏風から長崎唐館交易図巻まで —

2010年6月19日[土] ~ 8月1日[日]

神戸市立博物館
Kobe City Museum

会場：2階南蛮美術館室



No.4 狩野内膳筆 南蛮屏風(左隻部分) 重要文化財

豊臣秀吉のお抱え絵師・狩野内膳^{かのうないぜん}（1570-1616）筆「南蛮屏風」（重要文化財）が公開される1年に一度の機会です。例年は南蛮美術の名品とともに見ていただいておりますが、今回は近世の海外交易をテーマに作品を選んでみました。

世界で90点以上が確認されている南蛮屏風のなかで最もすぐれた作品であり、スペイン人・ポルトガル人の渡来や交易の様子をビジュアルに見せる内膳本、諸外国との友好的な商取引をテーマに新たな図様を示す「南蛮人交易図」から、中国・オランダ貿易の舞台となった長崎の街を詳細にあらわす「長崎鳥瞰図屏風」、出島や唐人屋敷の異国風俗をテーマにした伝渡辺秀石筆「長崎唐蘭館図巻」、長崎貿易の詳細を視覚化することを意図して描かれた唐絵目利・渡辺秀詮^{しゅうせん}（1736-1824）筆「長崎唐館交易図巻」^{とうかん}まで、優れた美術作品に描き込まれた、近世の海外交易の跡をみていきます。

出品目録

<◎は重要文化財 ※は個人蔵>

I 南蛮との交易を描く

1	『世界の舞台』	A. オルテリウス		1570年	1冊
2	『東方案内記』	リンスホーテン		1599年	1冊
3	都の南蛮寺図	狩野宗秀筆	紙本金地著色	桃山時代	1面
◎4	南蛮屏風	狩野内膳筆	紙本金地著色	桃山時代	6曲1双

II 交易のにぎわい

5	南蛮人交易図屏風		紙本著色	江戸時代前期	6曲1双
6	南蛮人交易図		紙本金地著色	江戸時代前期	1幅
7	長崎鳥瞰図屏風		紙本著色	江戸時代前期	6曲1隻

III 中国・オランダとの交易を描く

8	長崎唐蘭館図巻	伝渡辺秀石筆	紙本著色	江戸時代	2巻
9	長崎唐館交易図巻	渡辺秀詮筆	絹本著色	江戸時代	1巻
10	肥前国外商交易図巻		紙本著色	江戸時代	1巻
11	長崎港図	石崎融思筆	紙本著色	文化15年(1818)	1幅
※12	長崎港図	石崎融思筆	絹本著色	文政3年(1820)	1面
13	蘭船図	石崎融思筆	紙本著色	文政5年(1822)	1幅
14	長崎港図・ブロンホフ家族図	川原慶賀筆	絹本著色	江戸時代	1基
15	長崎蘭館図巻	高川文筌筆	紙本著色	天保14年(1843)	1巻

IV 城義隣が描く長崎

16	紅毛人食卓図	城義隣筆	紙本著色	嘉永2年(1849)か	1幅
17	阿蘭陀船中図	城義隣筆	紙本著色	安政3年(1856)	1幅
18	長崎港図	城義隣筆	紙本著色	江戸時代	1幅
19	万国人物図	城義隣筆	紙本著色	嘉永6年(1853)	1幅

V 異国趣味の工芸

20	蒔絵南蛮人文鞍	慶長9年(1604)	1背
21	象嵌南蛮人永楽通宝銭鏡	桃山~江戸時代初期	1対
22	蒔絵鉄砲文大鼓胴	桃山~江戸時代初期	1個
23	天正カルタ版木重箱	カルタ版木:桃山時代 重箱:江戸時代	1合
24	更紗尽し掛物	インド更紗:17~18世紀 掛物:江戸時代	1幅
25	黄地形附草花文様羅紗陣羽織	羅紗:19世紀 陣羽織:江戸時代	1領
26	白地草花縞文様更紗下着	ヨーロッパ更紗:19世紀 下着:江戸時代	1領
27	象牙彫西洋人物文小箱	図:荒木如元 稲辺天工作 江戸時代	1合

VI 輸出漆器

28	蒔絵螺鈿果樹鳥獸洋櫃	江戸時代初期	1合
29	貝貼り書筆筒	江戸時代初期	1合
30	貝貼り小櫃	インド製か 17世紀頃	1点
31	蒔絵カディス海戦図プラーク	1792年(寛政4)	1面
32	カディスに近いデ・サンタ・マリア岬における英蘭海戦図 ヨーゼフ・マリアヌス 紙本銅版	1781年頃	1枚
33	蒔絵に青貝細工肖像図プラケット	江戸時代	1面
34	蒔絵青貝細工ヴィクトル・モロー将軍図プラーク	江戸時代	1面
35	青貝細工出島家屋図煙草入れ	江戸時代	1点
36	青貝細工ヴィーナスにアモール図煙草入れ	江戸時代	1点
37	青貝細工花樹水禽文煙草入れ	江戸時代	1点
38	青貝細工フリーメーソン文箱	江戸時代	1点



No.9 渡辺秀詮筆 長崎唐館交易図巻

1階ホール 特別展示

狩野内膳筆「南蛮屏風」(高精細複製) 当館蔵
駒子の紙人形「南蛮屏風」 野口敬子教室制作 個人蔵



「駒子の紙人形」は、長崎市生まれの石垣駒子氏(1915~2007)が1963年から始めた和紙人形です。旧来の紙人形が折り紙を基本とした平面の人形であるのに対して、「駒子の紙人形」は針金を基本に綿と和紙だけを用いた立体の人形であることが最大の特徴です。

「南蛮屏風」の和紙人形(体長15~17cm・全59体)は、1966年以来「駒子の紙人形」制作を教えてこられた野口敬子さんと7名のメンバーが制作されました。野口さんは、2005年に博物館で展示されていた狩野内膳筆「南蛮屏風」(重要文化財)の緻密で華麗な描写に感動して制作のテーマにされました。制作にあたっては、図録を参考に作品の時代背景や衣装などについての理解を深め、動物園まで足を運んで実物の虎を参考にするなどしながら、4年をかけて完成されました。

特別展示では、立体の「駒子の紙人形」と「南蛮屏風」(高精細複製)の緻密な表現を比較しながらご覧いただけます。

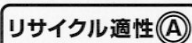
狩野久蔵(内膳)筆「平敦盛像」 天正18年(1590)
神戸市・福祥寺(須磨寺)蔵 神戸市指定文化財



寿永3年(1184)2月7日の一の谷の合戦の際、須磨の浜辺で16歳の生涯を閉じた平敦盛。本図には大きな母衣を背負い、波打ち際を疾駆する敦盛が描かれています。馬や母衣、波濤の力強い表現と、敦盛の若々しい表情や華やかな装いとが好対照をなしています。宝相華紋が配された表装部分まで手描き(描表装)なのも特徴的。「狩野久蔵廿一歳筆」の落款と「暉」の壺印から、当館所蔵の「南蛮屏風」(重要文化財)を手がけた狩野内膳(初名・久蔵)21歳の作品とわかります。描表装は仏画によく用いられること、縦347cm・横186cmの大画面に敦盛のみを描いていることから、敦盛を偲んで須磨寺を訪れる人々の礼拝用として制作された可能性が考えられます。須磨寺と敦盛との縁の深さを窺わせる、内膳の代表的作品です。

次回展示会のご案内

特別展 ポストン美術館 浮世絵名品展 錦絵の黄金時代-清長、歌麿、写楽
2010年8月14日(土)~9月26日(日)



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

神戸市立博物館 〒650-0034 神戸市中央区京町24番地 TEL:078-391-0035

平成22年6月発行

神戸市広報印刷物登録 平成22年度第85号 広報印刷物規格B-1類